



校長室だより 第3号

令和7年5月30日
大阪市立新東三国小学校
校長 岩井 伸夫

◇◇6月1日 創立記念日について◇◇

6月1日(日)は新東三国小学校の創立記念日です。校舎に入って、左手の管理作業室の上の所に新東三国小学校の沿革が掲示されています。北中島小学校と東三国小学校の児童が多くなったため、この二つの小学校より分離独立する形で淀川区16番目の小学校として、昭和57年4月1日に新しく作られました。昭和57(1982)年4月7日に入学式、8日に始業式が行われ、1~5年生493名でスタートしました。平成23(2011)年に30周年式典挙行、令和3(2021)年に40周年、今年令和7(2025)年は44周年です。これまで、保護者や地域の方々の願いと期待の中で歴史を重ねてきています。現在、児童数が少し減り、302名となっていますが、今も昔も子ども達、卒業生にとって大切な母校です。



新東三国小学校の卒業生が、節目に恩師を訪ねてくるシーンを見かけることがあります。小学校で学んだことや思い出を大切にしながら成長した立派な姿を見て、うれしく思います。今後も新東三国小学校の伝統を大切にしながら、保護者、地域のみなさまと連携をとり、教職員一丸となってよりよい学校にしていきたいです。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

◇◇生きる上で大切なものは？◇◇

毎日新聞の5月19日(月)号に医師で作家でもある鎌田 實さんの興味深い記事、「数値化できぬ力が大切」が出ていたので下記に抜粋して掲載します。

生きていくとき時々壁にぶつかるが、人はあきらめずに乗り越えていくことができる。この「やり抜く力」の正体とは一体何なのか。アメリカのAngela Duckworth教授は「GRIT理論」を提唱している。GRIT(グリット)とは、つぎのことば「かじらもじ」な「ガッツ」どきようとうし「レジリエンス」かいふくりよく「イニシアティブ」じはつせい「テナシティ」しゅうねん次の言葉の頭文字から成っている。Guts=度胸・闘志、Resilience=回復力、Initiative=自発性、Tenacity=執念・粘り強さ。逆境や困難を乗り越えるには、どの要素も欠かすことができない。ダックワース教授がこの理論を考えたのは、中学校で教師をしていた時の経験がきっかけだったという。彼女は数学を教えるなかで、IQの高さと成績のよさには相関がなく、必要なのは粘り強く勉強をやり抜く力だと気づき、教師から心理学者に転身した。やり抜く力は、小さな成功体験を積み重ね、今よりちょっとだけ難しいことに挑戦するなかで、強化していくことができるという。今、子どもたちは偏差値やIQなどの数値に縛られているように思う。だからこそ、生きる上で大切なものは、やり抜く力や決断力、他者への配慮、コミュニケーション能力、先を見通す力など数値化できない「非認知能力」だと伝えたい。そして失敗を恐れずに挑戦してほしい。

子どもたちに、やり抜く力や決断力、他者への配慮、コミュニケーション能力等の将来、社会で生き抜いていける力を学校、家庭、地域が連携して育てていけたらと思います。

